

## 医学検査学科

医学検査学科では、5月頃から本格的に国家試験対策の補講や模擬試験を行っています。特に、模擬試験後は学内で採点を行い、SG担任と学生の間で成績の伸びや弱点をすぐに把握できるよう工夫しています。また、アンケートをとって学生のニーズに合わせた補講を実施しています。

## ■ひとことエール■

国家試験まで残り約1ヶ月です。努力に勝るものはありません。試験当日まで1点でも高い点数を目指しましょう！

(上妻行則准教授、原口実紗講師、山本隆敏講師)

リハビリテーション学科  
理学療法学専攻

「国家試験対策本の隅から隅まで勉強する」を目標に、理学療法総合演習の難易度を上げて、国家試験対策に取り組んでもらっております。今月から学内講師による計20コマの特別講義も実施の予定です。

## ■ひとことエール■

感染症に罹患しないように最小限のコミュニケーションと効率の良い勉強をしてもらいたいと考えています。分からないなら知識のある教員に気軽に聞く！ポッチにならない！ フレーフレー！熊保大！

(申敏哲教授、土井篤教授、中原和美准教授)

リハビリテーション学科  
生活機能療法学専攻

生活機能療法学専攻の今年度の国家試験対策は、スモールグループごとの対策勉強からスタートしました。12月末からは、伸び悩む学生を対象に専攻全体で手厚い指導をしていきます。できるだけ大学に登学してもらい、学習の密度を高めてもらいます。

## ■ひとことエール■

学生の皆さん、良くも悪くも時間は限られています。焦らず、手を抜かずしっかり勉強しましょう。

(吉田真理子准教授、松尾崇史講師、吉村友希講師)

国家試験までのこりわずかとなりました。学生たちにとって、夢実現に向けた最大の関門。各学科・専攻の担当の先生方にこの1年の取り組みを紹介してもらいました。

## 国試合格へ一丸

## 看護学科

学生委員が中心となって、模擬試験、補習講義を実施してきました。成績が伸び悩んでいる学生に対しては、国試対策教員、SG教員、看護研究担当教員が声をかけ、勉強方法などの相談に乗っています。

## ■ひとことエール■

大変な思いをしてきた実習や講義、就活・進学、国試対策……。乗り越えてきた自分に自信をもって、看護師・保健師になっている自分をイメージしながら頑張ってください！

(船越和美准教授)

リハビリテーション学科  
言語聴覚学専攻

言語聴覚学専攻では、国試対策として、①規則正しい生活リズムをつけるためのタイムカード、②学習に集中するためにスマートフォンのあずかり、③1日15問の過去問の配信、④月に1回の模擬試験を行っています。

## ■ひとことエール■

国家試験まであとわずか。皆さんや残り残りのないよう一日一日を大事にしてください。一緒に頑張りましょう！

(池寄寛人准教授、兒玉成博准教授)

## &lt;国家試験の日程&gt;

資格	試験日	合格発表
助産師	2/9 (木)	3/24 (金)
保健師	2/10 (金)	
看護師	2/12 (日)	3/23 (木)
臨床検査技師	2/15 (水)	
言語聴覚士	2/18 (土)	3/24 (金)
理学療法士・作業療法士	2/19 (日)	3/23 (木)

学生委員中心に模試、補講

1日15問 過去問を配信

ニーズに合わせた補講実施

難易度上げた演習、特別講義も

伸び悩み解消へ手厚い指導

頑張ってます!

OB・OG訪問

# 神経難病患者へのリハビリ充実図る

くまもと南部広域病院理学療法士

嶋本 稔也さん (32)

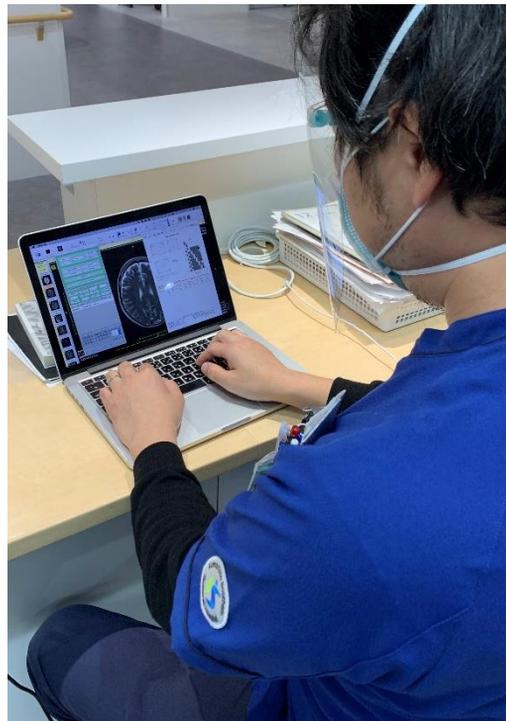
くまもと南部広域病院（熊本市南区）の理学療法士、嶋本稔也さん（32）＝2012年、リハビリテーション学科理学療法学専攻卒業＝は、勤務の傍ら熊本大学大学院の博士課程で研究の日々を送っています。嶋本さんに研究テーマや後輩へのアドバイスを寄せてもらいました。



私は普段、くまもと南部広域病院にて理学療法士として、神経難病分野のリハビリテーション業務に従事しています。

神経難病とは、原因や治療がわからない進行性の病気を指し、主な病気としては、パーキンソン病、脊髄小脳変性症などがあります。これらの病気に対しては薬物療法だけでなく、リハビリテーションが必要となります。リハビリテーションが充実することで、確実に患者の生活の質が向上する分野であるため、大変やりがいのある仕事です。

一方、私は病院勤務の傍ら熊本大学大学院の博士課程に在学しています。大学院では、神経難病の患者に対するリハビリテーション効果のメカニズムについて研究をしています。神経難病に対するリハビリテーションについては未だに分かっていないことも多く、自ら切り開いていける分野だと感じています。私達と一緒に神経難病分野のリハビリテーションの未来を作っていきましょう。



健常者と患者のMR画像を解析する嶋本さん

## プロ選手支える…心構えなど伝授

プロ野球西武ヘッドトレーナー 門田さんがミニ講演会

プロ野球の埼玉西武ライオンズでリハビリテーションヘッドトレーナーを務める門田大祐さんが12月12日（月）、本学キャンパステラスでミニ講演会を開き、リハビリテーション学科理学療法学専攻の学生たちを前に、プロ球団での仕事の内容や心構えなどについて語りました。

熊本出身の門田さんは、岩下佳弘准教授（同専攻）が以前勤めていた学校の教え子です。オフシーズンの帰省時には岩下准教授の要請に応じ、本学でミニ講演会を開いています。今年度は新設されたスポーツリハビリテーションコースを希望して入学してきた学生もいて、講演会には約40人が参加しました。

講演では、事前に学生側から寄せられた質問にそって、1日の仕事の流れや具体的な内容、選手との対応において特に注意をしていること、入団するために取り組んできたこと、選手を支えるメディカルトレーナーに対する日本とアメリカの認識の違い、女性進出の割合の違い、球団契約を継続していくために重要なことなどを紹介。なかなか聞くことのできない内容に、集まった学生も真

剣な表情で聞き入っていました。また、実習のために参加できなかった3年次生のために、12月26日（月）にも本学に足を運んでくれました。

2023年シーズン、門田さんは活躍の場を福岡ソフトバンクホークスのアスレティックトレーナー（リハビリ担当）に就任することが決まっており、日本プロ野球トレーナー協会の学術部長としても活躍が期待されています。（入試・広報課）



若い学生たちを前に講演する門田さん

# ゲノム解析、新型コロナ治療に応用

## 国立感染研・黒田氏 オミクロン株特徴など紹介

第2回学術講演会が12月13日（火）、50周年記念館で開かれ、国立感染症研究所の黒田誠・病原体ゲノム解析研究センター長に「COVID19流行におけるゲノム解析の実情」と題してご講演いただきました。

黒田センター長は、国立感染症研究所と地方衛生研究所が協力して実施している新型コロナウイルス・ゲノムサーベイランスによる公衆衛生対策の実際や、拡大中のオミクロン株の特徴を紹介。ゲノム情報から推定される感染性・免疫逃避の変化がどのように影響を及ぼしうるのかを示しました。

当日は、学生や教職員以外にも学外から地方衛生研究所の先生方など、多数の参加がありました。今回の講演は国立感染症研究所と本学で締結した

共同研究の一環として実現したものです。共同研究の締結等に尽力いただいた高橋元秀先生をはじめとした各先生方に改めて御礼申し上げます。

（医学検査学科・山本隆敏）



講演する黒田センター長

臨地実習で受け持った症例報告を行う研修生



## 臨地実習の体験発表

### 認定看護師課程の研修生7人

12月26日（月）に3108M講義室で実施された「リハビリテーション看護論（選択科目）」で、認定看護師教育課程脳卒中看護分野の研修生7人が臨地実習で受け持った患者への看護の模様をプレゼンしました。

本授業は看護学科3年次生を対象に、リハビリテーションの歴史や主要な概念からリハビリテーション看護の持つ意味を理解し、疾病や障害を持ちながら生活する人とその家族への援助について学びます。

プレゼンは授業の最終日に合わせて実施。研修生と学生とのディスカッションも行われました。学生たちからは、「患者さんの強みやその背景の理解」や、「知識をもつことでのアセスメントの広がり」を実感したといった感想がありました。また、「本学でキャリアアップできることを知らなかった」、「認定看護師に興味を持った」とキャリアデザインについても考えるきっかけになっていました。研修生も真剣に聴講している学生の姿や言葉から刺激を受け、学びをより深いものにしていました。（入試・広報課）

## 学生の眼

### お年玉



私にとって今年一番うれしかったお年玉は、家族や友人と過ごすことができたことだ。

大学生となって初めての年末年始の休み。私は約4ヶ月ぶりに地元種子島へ帰省し、家族と過ごした。買い物に行ったり、おしゃべりをしたり、みんなでご飯を食べたり、遊んだりした。全てが楽しくて、時間があっという間に過ぎていった。

いつもと同じ年末年始を過ごしたはずなのに、今年はどこか違う気がした。それは、今まで当たり前だと思っていたことが当たり前ではないと気付いたからだ。親元を離れ、今まで会いたいときに会っていた人たちとも遠くなり、1人の時間が圧倒的に増えた。その中で、たくさん寂しさや孤独感を感じたからこそ、今までの当たり前が本当に幸せだったのだと思い知らされたのだ。家族や地元の友達に会えることが何よりもうれしく思えた。

1週間という短い滞在だったが、本当に貴重な時間だった。これからテスト勉強や実習など大変なことがたくさん待っているが、家族や友人と過ごした時間をエネルギーにして、全力で頑張っていきたい。

（アカデミックスキル支援センター・学生広報スタッフ）

リハビリテーション学科言語聴覚学専攻1年  
橋口 璃央

# 中華首藤さんの挑戦支える

健康・スポーツ  
教育研究センター

レポート

## 熊本城マラソンに向けデータ測定、指導

2月19日（日）に開催される熊本城マラソン2023に挑戦するタレントの中華首藤さんが、健康・スポーツ教育研究センターのサポートを受け、フルマラソン完走を目指しています。

中華さんは1月10日（火）、コーチでタレントの英太郎さんとともに同センターを訪問。42.195kmを走り切れるだけの筋力があるかどうかを見るため、スタッフが多用筋機能評価運動装置バイオデックスを使って膝関節周りの筋群の大きさや左右差などを計測し解析しました。さらに、加速度センサーを装着し、走る際の接地パターン、接地時間、重心動揺、角度などを細かく計測。解析結果をもとに、理学療法士とアスレティックトレーナーの資格を持つ荒木理恵講師が今後のトレーニングについて指導しました。

英太郎コーチと中華さんは、荒木講師の助言をもとにトレーニングを続け、本番に臨みます。ト

レーニング期間中、効果を見るために再度同じ測定を行い、直前のコンディショニングに役立ててもらおう予定です。



体幹トレーニングを指導する荒木講師（左）と必死の形相で取り組む中華さん

## 銀杏アラカルト

実習報告を行う別科生たち



■助産別科生が実習報告会 助産学実習Ⅱの「実習報告会」が12月27日（火）、3102S講義室で実施され、助産別科生が実習の成果を発表しました。それぞれ実践内容や結果を報告し、今後の課題に結び付けていました。初産婦を受け持った別科生は、出産への不安に対して声掛けや傾聴、受容する態度などの情緒的支援の重要性を実感したようでした。原田なをみ別科長は「分娩介助10例、産褥ケア2例の経験を積み、助産師としての基礎的実践力を養うことができた」と実習の成果を評価していました。（入試・広報課）

## 私のお薦め記事

（このコーナーはDive! LSP 1年生が担当しました）

### 医療・福祉 40年に100万人不足 厚労白書推計 処遇改善や技術革新訴え

（南日本新聞、2022年7月28日付朝刊2面）

概要

2022年版の厚生労働白書の概要が判明した。少子高齢化で医療・福祉分野の就業者数は、40年に約100万人足りなくなるとの推計が盛り込まれている。安定的なサービス提供には、医療現場で看護師や薬剤師らへのタスクシェア・シフトを進め、医師が専門的な業務に集中できるよう働き方を改善することが必要であるとしている。

（リハビリテーション学科言語聴覚学専攻・楠玲弥）

コメント

現在、技術が発達しロボットがあらゆる場所で活躍している。しかし、医療の現場で患者さんとコミュニケーションを取りながらケアをすることが出来るのは人間しかいない。もっと医療・福祉関係の仕事に就きたいと思う人が増えることを願うとともに、自分もしっかりと色々な知識を身につけ、一人でも多くの人を救えるようになりたいと思う。（医学検査学科・前田茉穂）